



川俣小学校「学校だより」 輝くひとみ

令和6年3月4日(月) 第24号

みんなでのびる

☆高め合う子

☆助け合う子

☆きたえ合う子

発行者 校長 小野真教

「川俣町の産業を調べ、紹介しよう」

子どもたちが自分の郷土に誇りと自信もつことは、これからの町の発展には不可欠です。本校では、総合的な学習の時間において、川俣町の特徴について学習できるように、学年ごとにテーマを設定して取り組んでいます。3年生は川俣町の産業に関わる学習や体験を行います。蚕を育て糸を取り織物体験をする学習をしています。4年生では、国際理解や産業について学びます。コスキンについて調べ学習を行ったり、町の様々な産業（シャモ、アンスリウムなど）について学びます。5年生は、町の自然環境に関わる学習や体験活動を行います。6年生は、川俣町の歴史や文化、福祉などについて学習します。3年生から始まる総合的な学習で、町の産業、自然、歴史、文化などについて学びます。総合的な学習の目標「探究な学習を行うことで、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」に沿いながら郷土愛を育てることに取り組んでいます。

28日に4年生が川俣町の産業についての調べ学習の一環として、3箇所の見学学習を行いました。



アグリサービス安田にて
アンスリウム栽培を見学



川俣町農業振興公社にて
シャモの調理を見学



紺野機業場にて機械を
使った機織りを見学

3. 11ふくしま追悼復興



13年前の東日本大震災を経験した子どもは小学生にはいません。13年経つと、今なお辛い思いをしている人がいるのに、その空気が次第に薄れてきてはいないでしょうか。あの時の辛く苦しい思いや、災害に向き合う人々のたくましさなど、忘れてはならないことがたくさんあります。本校では、3月11日に全校で追悼・復興の意味をこめた集会を開きます。

さて、それに先立ち、伊達市在住の永野泉さんをお招きして「じろはったん」の授業を3年

生で行いました。震災当時、石巻に住んでいた永野さんは、弁当店を営んでいましたが、津波で自宅兼店舗が全壊しました。自宅にあった「じろはったん」の本だけが奇跡的に見つかり、一冊の本に勇気づけられてから、様々な学校で授業を行っています。「じろはったん」は、人を思いやる心、優しい心、差別しないこと、戦争とは、などたくさんのことを考えさせられる本です。また、永野さんの震災の実体験を直接聞くことで、東日本大震災を経験した人々が抱えてきた思いを風化させないことにつながり、追悼の意味も含まれます。

最後にタイサンボクの葉に子どもたちそれぞれの思いを書きました。この葉は、永野さんが3月11日に相馬の海に流してくださるとのことでした。



